



第7回総会

第7回総会報告

2019年5月17日 松本駅前会館



出席グループ 17
 出席者数 76人（講演会参加者 81人）

議長 傾聴みみずく 浜 賢一 様

ご来賓

長野県健康福祉部 地域福祉課 課長補佐・福祉人材係長 望月 昭彦 様
 長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター企画員 山本 千鶴子 様

傾聴が大切な時代であると、温かい励ましのお言葉をいただきました。

1号議案～4号議案を審議・承認していただきました。

〔質疑応答〕

○3号議案 2019年度事業計画関連

- 基礎講座運営について 現在までの実施状況・連絡協議会への加盟状況は？

- 塩尻市社協開催 2018. 6

- 飯綱町社協開催 2018. 11（2019. 3）

いずれも現在まで加入の連絡はない。

- 会計の状況は？

- 一部、未入金の状態であり、今年度はまとまった会計報告ができない。

- 口頭で金額の概略説明。資料（テキスト）作成費、交通費などは現在のところ研修部員自己負担となっている。

- 2020年度総会で会計報告する。

このほか、総会後のご質問ご意見について

- 長野県・長野県社協との連携はどのようになっているか？

- 会報「野原の歌」 講演会周知チラシなどを長野県のホームページにアップしていただいている。（地域福祉課）

- 講演会等の後援をいただいている。（県 県社協）

- 今後どのようなことで協力を得られるか検討していきたい。

北信ブロック代表 新代表 菅原 眞一



今年度より北信地域代表を須坂市黒田さんより引き継ぎました、飯山傾聴の会の菅原（すがはら）です。傾聴活動の経験も浅くどこまでお役に立てるか心配なところですが、皆さまのご指導をいただきながら務めさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

よろしく
 じゅうぞ

講演会のお知らせ 「いつまでも住み慣れた我が町に暮らすために～医療と福祉～」

日時 2019年10月5日（土）14：00～16：00（受付13：30）
 会場 塩尻総合文化センター
 講師 富士見高原医療福祉センター統括院長 矢澤 正信 医師
 参加費 1000円
 詳細 別途 講演会チラシ（会報17号と共に送付しています）

矢澤医師は長野県の地域医療の第一人者です。ぜひご参加ください。

松橋和彦先生講演会「傾聴の技法」レポート 三宅秀明（東信ブロック代表）



傾聴に取り組む意義・役割、あるべき姿勢などを人の心の観点からのお話でした。そのキーワードは「支配欲」であり、人は誰もが「人に影響を与えたい、自分に従ってもらいたい」という欲望を持っている。支配欲の極端な表れが虐待、DV、ハラスメント、いじめなどにつながり、今、大きな社会問題になっている。人類は、感情・本能・欲望（東洋医学では情志）を知性・理性・経験（東洋医学では神志）で抑え発展してきた。なぜ人間は知性・理性を発達させることが出来たのか？それは言葉を獲得し家族を超える集団をつくることが出来たから…人は言葉で考えている。言葉でコミュニケーションを取り、狩猟などの連携した行動は、リーダーのもと役割と分担を生み、同時に言葉で「支配の等価交換」をおこないストレスなく集団を維持してきた。人と人と

のつながりが家族を超え社会を構成した。支配欲が言葉を拡大させ社会を発展させてきたが、その一方、支配欲は人を傷つけてきた。

心の観点から傾聴の役割を定義すると

個人、社会が持つ強すぎる支配欲（攻撃力）を穏やかなものにする。

支配を受けた人の心の傷を癒す。

そして、傾聴に臨む態度は

自分自身の支配欲を抑制して、安定して私がここにいるという姿勢で、自分自身の感情は大きく動かさない。

続いて、支配と傾聴でのケーススタディにより配慮すべき事や気を付けるべき事などが話された。（個々の詳細事例は、取り上げるスペースがないのでケーススタディをまとめました。）

① 支配の事例からいえること

話し手と支配関係にならないようにする。話し手に気に入られようと思わない。共感し話を聴きながらも引きずり込まれないように距離を取る。訪問しての傾聴は複数で行う。など注意が必要。話し手は傾聴者に対して支配欲を向けてくることがあるし、傾聴者も話し手に対して支配欲がある事を考え、それをコントロールするように自制すること。強い支配欲を向けてくる場合は距離をおくこと。話し手はかつて虐待、DV、ハラスメント等支配欲の犠牲になって心の傷を負っているかもしれないことを意識しておくこと。

② 傾聴の事例からいえること

指導的な姿勢や意見を言うのではなく、共感的な姿勢で本人がこうすべきという本来自分で出すべき結論が出るようにするのが理想である。高齢者の傾聴では、高齢者は理由を直ぐに語らないことがあり、繰り返し話をするに重要な意味が隠れていることがある。また、なかなか理解しにくいケースがあり、人間関係や系図などを描くと理解しやすい。系図、仕事、戦争中、実家などの話を傾聴で活用することは有効であるが、昔の話としてそこで終わらないで、最後は現在の話に戻して終わることが、本人の心のために大切な事。

まとめと感想

支配欲という観点での分析は、今社会で起きている様々な問題（いじめ、虐待、DV、ハラスメント、ひきこもり）をよく理解でき、傾聴的な姿勢はこれらをやわらげる手法として有効であるとお話は、傾聴活動の活力になります。診療の現場で心理カウンセリングを通しての様々な事例について専門的に分析されたお話も傾聴に活かしてゆけるものと考えます。

「傾聴によって個人や、社会全体が持つ支配欲を穏やかにすることが出来る」との言葉には強く励まされました。

傾聴ボランティア 基礎講座実施情報

原村社会福祉協議会 6月27日・9月
受講者数 35名

傾聴ボランティア辰野 9月・11月

県社協及び各地区の社協に、傾聴ボランティア基礎講座運営のお知らせを5月付けで送付しています。社協主催での講座の開催や地区の傾聴ボランティアグループへ支援をお願いする内容となっています。

原村社協主催の講座の様子は信濃毎日新聞（6/27付け）に掲載されました。

長野県傾聴ボランティア連絡協議会
代表 長谷川 昭 TEL FAX 0264-48-2133
携帯 09043981187
mail kimama2@ot.kiso.ne.jp
〒397-0201 木曾郡王滝村 4100-13



会報担当 弓削淑子
TEL FAX 0266-74-1122
mail yugetora@po30.lcv.ne.jp
〒391-0115 諏訪郡原村原山17217-2199